

## 盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）

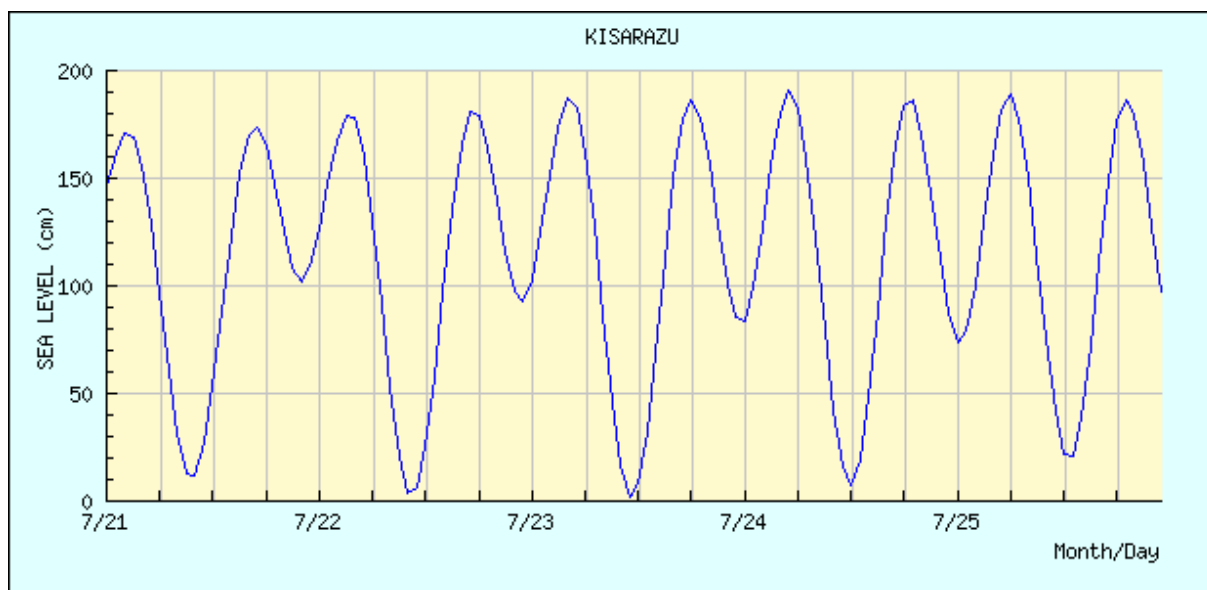
日時：2013年7月23日（火）10:30-13:00

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

これまで継続的に観察している木更津漁協の潮干狩り場に行きました。下図の赤い点線の範囲（岸から干潟の縁辺まで 900m）を歩き、所々で熊手、手網、スコップを用いて底生動物の状況を確認しました。昨年同様に潮が引く日で、最干潮は 11:12、晴・曇りの穏やかな天気でした。



観察の範囲



推算潮位（気象庁潮位表：東京） 2013年7月23日 11:12(1cm)

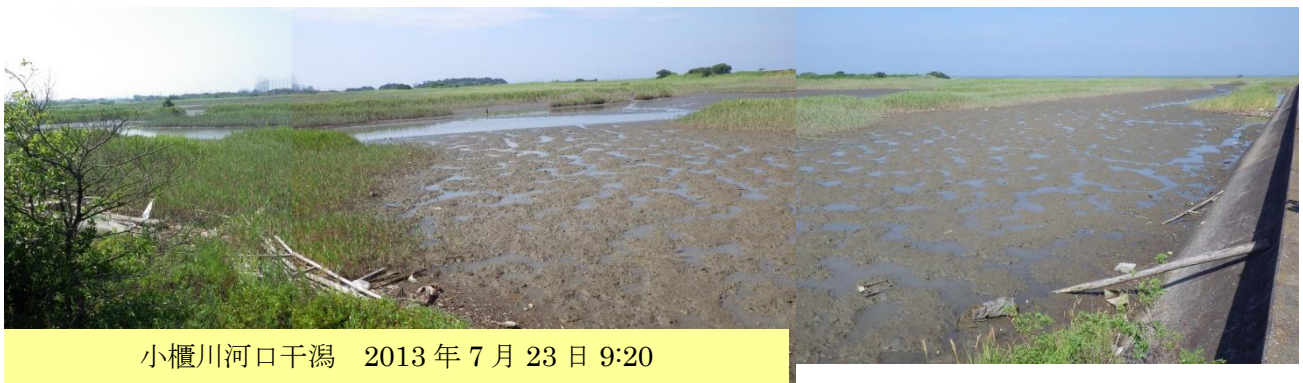
【潮干狩り場】

木更津駅から海に向かって真っすぐの下ると木更津港に着きます。かつて川崎－木更津間のフェリーボートが航行していた航路にかかる赤い橋を歩いて渡り、潮干狩り場に入ります。

今回は 10 時に木更津駅集合でしたので、この橋を渡るときにはかなり潮が引いておりました。参考までに、昨年（2012年）の帰りがけの写真を下段に示しました。同じようなところに「滞筋」（潮が引くときに海水が流れる小水路）や「潮だまり」（地盤が周囲より低くて水面が残る部分）があるのが分かります。おまけですが、小櫃川河口干潟のヨシ原の当日の状況を最下段に掲載しました。



写真1 干潟の状況（赤い橋の上から）





【潮干狩り場】

昨年同様に平日で潮干狩り客が少ない状況でした。潮干狩り場の入り口には、アナアオサが少々打ち寄せられておりました。



写真2 潮干狩り場入口の状況

☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 昨年は、「貝類、多毛類が見当たらず、カニ穴もほとんど見られません。」という状況でしたが、今年は、アサリ、シオフキガイの稚貝が結構いました。



写真3 岸寄り、護岸付近の状況

【岸から 100m】



ここにも岸寄りと同様にアサリ、シオフキガイの稚貝がいました。よく見ると、マテガイ、バカガイの稚貝もいました。「生まれも育ちも東京湾」の貝類です。底質の状況は砂泥質で貝殻片の混入が少なく、黒っぽい還元層や硫化水素臭（酸素が少ない状態を示す）はありませんでした。

この後、同様な観察を概ね 100m 間隔で行いました。



写真 4 岸から 100m の状況



【岸から 200-400m】

潮干狩りの人達が比較的多い所です。底質は岸から 100m 付近同様に、アサリ、シオフキガイ、バカガイ、マテガイ、キサゴが見られました。持ち帰るサイズは多くありませんでした。



写真 5 岸から 200-400m の状況



【岸から 500m】

400m を過ぎたあたりまで、お土産となるようなサイズのアサリが出てこなかったことから、木更津航路寄りのラインを北寄りに変更しました。潮干狩り場の北側には小舟が航行する小水路があり、防泥柵として矢板が打ち込んであります。そちらの方に、潮干狩りをする一団がいたことも進路変更の要因でした。



このあたりは、300m あたりから出現したコアマモが広く繁茂しておりました。底質は、砂泥質主体は変わりませんが、貝殻片の混入が多くなり、黒く変色した還元層も見られました。残念ながら、期待したような「アサリ」は出てきませんでした。



写真 6 岸から 500m の状況 (潮干狩り場の北寄り)



【岸から 600m】

500mを過ぎてから、アマモが出現し始めました。コアマモよりも大型の顕花植物であり、昔は、干潟縁辺部から水深 5m 位の海底に多く繁茂しており、大潮の干潮時には、「モに絡まれて船が動けなくなった」ほどという話を地元の漁師から聞いたことがあります。一時は激減しましたが、近年は回復傾向にあるように感じております。

アマモの群落に、所々シロボヤがいました。底質は貝殻片が多く、固くて熊手が入りにくく、そのために貝類がもぐり込みにくい状況でした。小型のキサゴは干潟表面付近に多くいましたが、アサリ、シオフキガイ、バカガイ等の二枚貝類はほとんど見られませんでした。

タモ網でハゼ類の稚魚も獲りましたが、見た限りでは少ないようです。



写真 7 岸から 600m の状況



【干潟の縁辺部 岸から 850m 程度】

干潟縁辺部で干出している部分は比較的少なく観察しにくい状況でした。砂に貝殻片が多く混じる固い底質で、干潟縁辺部にかつて見られた多毛類のスゴカイイソメの棲管（貝殻を付けた管で 5cm 位砂面から突き出ている）は昨年同様に見られませんでした。

バカガイを期待して干潟縁辺部を 200m程度歩いたのですが、キサゴはいたもののほとんどいませんでした。気がかりな点はホトトギスガイとムラサキガイの群落が見られたことです。マット状に干潟に繁殖するためにアサリなどが砂地に潜る上で障害となります。以前から漁業者が問題視して除去等の対応をしてきたものです。「人の利用に障害があるからいけない」と決めつけるのは短絡的ですが、繁殖力が強いものであり今後注視する必要があります。



写真 8 干潟縁辺部の状況



【その他、見つけた生き物たち】



クロムシ (タマシキゴカイ) 卵塊



クロムシ (タマシキゴカイ) 糞



マメコブシガニ



ツメタガいの卵塊



マテガイ



ツメタガイ





アオノリ類 (スジアオノリ?)



ハネモ (アマモに付着)



コウイカ類 (2cm 程度)



キサゴ



シロボヤとムラサキガイ